



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

2005.3.2 (No.2355)
週報 No.28

第2560地区ガバナー / 横山 芳郎
会 長 / 渡邊 喜彦
会長エレクト / 小越 憲泰(クラブ奉仕A)
副 会 長 / 渡辺 勝利(クラブ奉仕B)
幹 事 / 五十嵐 寿一
S A A / 船越 正夫
会 計 / 荻根澤 隆雄

例会日 / 毎週水曜日 12:30 ~
例会場及び事務局 /
三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
例会場 / TEL 34-3311
事務局 / TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail: sanjo-ss@web-niigata.ne.jp
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
(~はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

本日の出席会員数: 68名中55名
先々週出席率: 78.46%

【ヴィジター】

- ・三條北RCより 斎藤 正さん、
中條耕二さん

【先週のメイクアップ】

- [2.24] 燕RCへ
・松谷 昊吉さん、浅野 金治さん
- [2.28] 三條南RCへ
・松谷 昊吉さん、熊倉 昌平さん、
・五十嵐 晋三さん、五十嵐 昭一さん、
・金子 俊郎さん、斎藤 弘文さん、
・加藤 紋次郎さん、丸山 行彦さん



「ロータリーを祝おう 100年の歩み」
2004~2005年度国際ロータリーのテーマ



プリムラ ジュリアン

会長エレクト挨拶

小越憲泰会長エレクト



本日は北クラブより中條耕二先輩や、
斎藤正先輩がいらっしゃっており、より緊
張しております。また、今日の卓話は渡辺
先輩の中国事情ということでありませ

す。この一週間はいろいろなことがありま
した。21日は私の友人の子供さんが仕事
中の不慮の事故で突然なくなりました。
28歳でした。彼は学校を卒業後、家業を継
ぐために東京で修行した後、昨年11月

に帰郷し、家業を継いだばかりです。三條に帰って4ヶ月弱
しか経っておりませんでした。この3月には結納し来年春に
は結婚の予定でした。まさにこれから人生の一番楽しい、輝
かしい時を迎えようとしていた処でありました。残念で残念
でなりません。本当に人生の無常を痛切に感じました。ただ
ご冥福を祈るばかりです。

24日にリサーチコアで山古志村の長島村長の話聞くチャ
ンスがありました。私達も中越地震のすごさは体感しており
ますが、地震の中心地で実際に体験した長島村長の話聞き、
更に地震の凄まじさに身震いを感じてしまいました。テレビ
や新聞等で地震の状況は知っていたつもりでしたが、電気や
電話の全く通じない状況下での長島村長の行動力にはただ頭
の下がる思いであります。また、村民の93%もの人達が再び
山古志村へ帰ることを望んでいると聞き感動し、バイタリティー
も感じさせられました。三條も7・13水害に遭いましたが、
水は引いてしまえばその後の復旧の目処が立ちますが、地震
はそうはいきません。住む家も住む土地も無くなっているの
がわかっているのに、山古志村に帰りたいたいというバイタリティー
はどこから生まれてくるのか不思議な気持ちになりました。
長島村長のバイタリティーに引っ張られているのだなと思いま
した。

今年、神戸の長田区に行った時、わずが震災後10年でした

が町並みは見事に復興しておりました。駅から20分程歩きましたが、お年寄りの姿をほとんど見かけることがありませんでした。たしかこの地区には1人暮らしのお年寄りが多く住んでおられると報じられていたのに、そのお年よりが何処にいかれたのか不思議な気持ちでした。山古志村は過疎化の村で村民の過半数はお年寄りなのに、その殆んどの人達が地震でずたずたにされた土地に帰りたいと望んでいることに感動しました。

山古志村では復興に向けて村おこし運動が行われようとしています。私達も山古志ブランドの普及に努めてゆきたいと思いました。私1人の勝手な思いですが、この春には山古志村は長岡市と合併すると“山古志”という名前が消えてしまいます。復興を一日も速く達成する為にも新しい長岡市の市長に、この長島村長からなってもらうのが一番よいのではないかと勝手に思っていました。

そんなことを申し上げて会長代理の挨拶とさせていただきます。

藤田紘一さん

皆様、確定申告はお済みでしょうか。お早めに！

捧 賢一さん

入社式を行いましたので。

日戸平太さん

3月2日、70何回目かの誕生日です！

渡辺勝利さん

卓話でツタナイ話を聞いて頂きます。

斎藤真澄さん

渡辺会員の卓話を楽しみにしていると共に、早く雪が消えて仕事ができますように！

会田二郎さん、樺山 仁さん、藤田説量さん、

船越正夫さん、杉山幸英さん、石橋育於さん、

浅野金治さん、川瀬康裕さん、五十嵐力さん、

石月良典さん、斎藤弘文さん、松永一義さん

渡辺会員、卓話ご苦労様です。楽しみにしております。

3月2日分 ￥ 26,000

今年度累計 ￥ 739,000

幹事報告

五十嵐寿一幹事

次々週の例会(3月16日)は休会ですので、よろしくお願い致します。

ニコニコBOX

三条北 斎藤 正さん

ロータリー100周年を祝う合同例会では、大変お世話になりました。北クラブ一同、心から感謝しています。

三条北 中條耕二さん

久しぶりのメークです。今年もどうぞよろしくお願い致します。

小越憲泰さん

3回目の会長代理です。
渡辺先輩の卓話楽しみです。

菊池 涉さん

毎日雪です。この分では、春のお彼岸が来るのか心配です。

荻根澤隆雄さん

弥生の雪、春は遠のくのでしょうか。早く消えて欲しいです。

清水良一さん

連日の雪掻きで腰を痛めました。
昨日は楽しかった。ウフフフー

佐藤 武さん

昨日は菊池さん、荻根澤さん、山田さん、大変お世話になりました。腹の虫まで充分堪能致しました。

卓話

中国事情

渡辺勝利会員



直前まで、何をお話したら良いか迷いましたが、3日前の中国からの次男のメールを見たのがきっかけとなり、中国の事を話すことにしました。

中国人のプライド

3日前のメールには今、シンワ測定の大連工場がある日本工業団地の、ある日系企業の日本人総経理が、日本に派遣した中国人研修生に刺されて重傷を負った、とありました。その背景に、その研修生は中国のエリート校を卒業した青年で、日本企業のお陰でメンツが立たなくなった事を恨んでの行動だったとのことでした。

その中国青年は、中国でエリート青年として周囲から一目置かれ、本人もそんな気分でした。ところが日本では、日本の技術を教えて欲しいという事で来た生徒という観点で、良い意味で厳しく仕込む位の気持ちで対応したら、そのエリート青年は、中国では自分は現場で手を汚すような事はしなくて良い立場の人間だというプライドとの間で、割り切れない気持ちから、日本の企業の指導者との間でトラブルとなり、研修途中で中国に返されたのが原因で、中国に帰ってからメンツをつぶされた恨みからの犯行でした。今の私には、双方の気持ちがとても良く判るような気がします。

実は中国人には大変なプライドがあります。それからある意味では差別社会であります。今、上海の

都市戸籍を持つ人はエリートで、農村に育った人は都市戸籍をなかなか得られないのです。そのなかでも優秀な大学に入る人は相当なエリートなのです。日本で東大に入るなんてものでなくてもっとすごいのです。中国は一人っ子政策をやっているので一人の子供に6人の応援団がついているのです。両親の他にそれぞれの爺、婆がついて一生懸命子育てをしています。そして、自分の子、孫が優秀だということを最大の誇りにしている国民なのです。ですから、優秀な大学に入り、優秀な会社に入ることはその青年は大変なエリートで廻りから尊敬され、本人もそう思っているのです。

ところが日本に来ますとそのことはあまり価値がないのです。実は私の会社にも精華大学を卒業した青年が日本の研修生としてやってきました。精華大学は北京大学、交通大学と並ぶ中国のトップレベルの大学なのです。ところが全然態度が大きくて、他の研修生を見下して、日本語の研修中もその男だけは横になったり、宿題も他の研修生にやらせたりする、そういう扱いをするのです。ところが、その研修生は日本に来て一ヶ月もしないうちに燕の警察署から電話がかかってきて、警察に引き取りに来てくれと言われました。どういうことなのかというとサティでヘアリキッドを盗んだということなのです。日本では大した商品でないですけど、中国からみると涎の垂れそうな商品がたくさんありますから、ポケットに入れ、捕まってしまったのです。それで、私はその男をすぐ、中国に帰し、解雇しました。この様な経験からもエリートのプライドは大変なのです。日本の会社では何となく生意気な、また、自分は優秀なんだという意識からもう態度が違うのです。この様なことから、あらためて今回の大連での刺殺事件でも中国人のプライドを感じたのです。

日本人に対する感情

20数年前、初めて中国に行った頃、特に大連は暗い町でした。そして、みんな貧しくて、日本に対しては尊敬している部分を私はその時感じたのです。日本はアジアの先輩で、経済の優等生でよく頑張っている。私達はこれから一生懸命勉強してそして、日本の皆さんに一日も早く追いつくんだというそんな雰囲気でした。しかし、最近はもう違います。それこそIBMのパソコンを中国で造るのだという時代で、中国の人達は今はもう日本に追いつき追い越す、我々こそ中華思想で世界に冠たる中国人になるんだと、今なりつつあるんだという自負がありまして、最初の頃とは随分違う雰囲気があります。最初行った頃は中国人も大変謙虚で日本人に対しても非常に忠誠という感じを持っていました。ただ2、3人の信頼する幹部に聞いたら、本当は日本人は太った豚、ネギ鴨で、どうやって上手に箸を取るかの対象に考えていると思った方がいいよと聞いたことがあります。本当にタクシーに乗ると日本人には中国人の5倍位の料金をふっかけてきます。中国人と一緒に行きまして、私が黙っていても、中国人に1元でりん

ごを売っても日本人に3円で売ろうか5円で売ろうかという雰囲気がありました。ところが日本人が向こうに行きますと、仮に中国の5倍ふっかけられなくても「おー中国はタクシーが安いんだなー」となってくるのです。向こうの事情を知らない人にとりまして中国のタクシー料金は安く、5倍の料金を取られても中国は安いだと思ってしまうのです。今はだんだん変わってきましたけれど、そういった背景があるだけに中国人も精々たかってやれといった雰囲気がありました。

私は最初の中国への工場進出の前に中国と取引がありまして、国営の航空機メーカーだったんですが、その工場に案内されて、家内と二人で行ってきたことがあります。中国の奥地にありまして飛行機で飛んでいきますと、帰りの飛行機は一週間後になるのです。たった1回工場見学に行くために一週間向こうで足止めを食らうのです。お陰で素晴らしい滝をみたり、いろんな観光をさせていただきまして、退屈しないで過ごしました。ある晩は多民族の交流会を見ました。若者達の交流があり、たくさんのカップルができたり、ひまわりの種を食べていたり、また、昼間は脱穀の様子を見たり、その当時は皆はだして、田んぼの水車は裸足の人間が水車の上に立って足で水車を回していました。そういう奥地の中国を見ました。それも20数年前の奥地の中国を見てきました。また、上海のすさまじい発展も見てきました。そして、その帰りに上海で私達のところに飛び込んできた青年がいて、いまさらながら中国人のプライドを感じさせることがあったのです。

彼はその後、日本に来ることになりまして、自分の実力で日本の大学に入りました。ところが彼を追っかけてきた上海の女性と出来て、子供が出来てしまったのです。そのため、彼は家族とともに上海に帰らなければならなかったのですが、年収が300万円を確保できて、技術者としての職を確保すれば帰国を免れると、私の所に転がり込んできたのです。そして、私は受け入れ、我が家で出産し、子供を育て、一緒に生活しました。その男も復旦大学という外国語を学ぶエリート校を卒業し、彼女の方も上海の看護婦さんで優秀なカップルだったのです。私が大連に工場を造りたいと言った時におおいに反対されたのです。私は変化の激しい南の方に工場なんか造れない、また、アパレル関係の会社の総経理から中国は労務管理がやりにいく、特に発展の激しい上海ではその労務管理がもっと大変で、のんびりした北の方に移転してやっとうまくいった会社があったと聞いたものですから、加えて、私の親戚で大連から引き揚げてきた者がいたことと、大連に日本の工場団地ができたことから、私は大連に工場をつくったのです。その結果、会社が何とか立ち上がる目処をつけて、彼は上海に戻っていったのです。恐らく、上海生まれ、上海育ちの彼には大連での生活はプライドが許さない、上海の企業でやって欲しかったんだと今になって思っています。いずれにせよ、彼のお陰で、私共も中国の工場を立ち上げることができたので感謝しています。

もし彼の存在が無ければ決して中国の工場を立ち上げることができなかったと思います。

もう1つは中国は盛んに合併合作の声をかけてきます。特に国営企業はそれを最大の政策と考えています。ところがほとんどがうまくいかないのです。いいときはいいでどうやってそのいい分け前に預かるかですし、逆に言ったら日本に取らせずにいっそ自分で取ってしまいたいという気持ちが湧きますし、悪いなら悪いで日本を頼って穴埋めを求めてきますし、良くても悪くても中々うまくいかないと聞いていました。それで私は100%独自の会社が許可されるなら進出してみようと思っていたのです。今、思うとそうして良かったと思っています。大企業とか力のある日系企業なら合併でも合作でもうまくいくでしょう。土地は出します、建物は建てます、変わりに技術を下さい、販路を下さい、となるのですけれど、その点では独自にして、日本式の経営をそっくり持ち込みました。たまたま、私は日本人式に強引に教育し、家内が、ガムやお茶葉を捨てる中国人に、トイレの使い方まで徹底的に教育しました。社長の私と家内が先頭になってガンガンやってきましたので、しょうがなく中国人は日本人の言うことを聞いたのです。実際は中国人は日本人の言うことを聞きたくないのです。おそらく、普通に日本人社員や幹部が派遣されても中国の習慣を前面に出してきて言うことを聞かないのでしょう。周りは中国人ばかりですから当然反発を買うわけです。特にあの当時、日本から進出した企業は日本語をよくできる朝鮮族を幹部に据える例が多かったのですが、少数民族の朝鮮族に従うことはプライドが許さず、結果的に労務管理がうまくいかなかったと聞いています。幸い私のところはそういう状況でやってきましたのでうまくいったのです。

中国の人件費は安く、日本から社員を4人も派遣すると往復航空代とホテル代などで200人の中国人を雇うのと同じコストがかかってくるのです。ですので日本人を簡単に送っておけないのです。最初は日本から10人も送って、完全に日本式経営でがんがんにやってきたのですが、今は日本人は次男坊が行ったきりで会議も中国語でやったり、完全に中国式でうまくやっています。大連という土地でやったことなどいろいろと運が良かったことなどから今のとこ

る順調に経営できています。

私の次男坊は家族で中国に行ったきりで子供も完全に中国の教育を受けさせています。孫は中国の幼稚園に行っています。そこでのあだ名はツーペンミシといわれています。ミシとは日本人という意味で呼ばれているのです。私は日本人が簡単に行けない203高地がある旅順に行く機会がありました。そこはまさに反日教育のシンボルである旅順刑務所があり、日本帝国軍人は...の大きな文字で書いた看板は反日教育のスゴサを物語っていました。反日教育がされていて幼稚園の子供達は反日の歌を歌わせられています。そして、映画なども見せられています。その映画の中に日本人の上官が「めし(飯)」と呼んでいるシーンがあります。その飯と呼んでいるのを「みし」と聞き違い、うちの孫にミシといったあだ名がついたのです。最近いろんな形で言われていますが、鄧小平から江沢民というリーダーが国をまとめ、ひっぱり手として、秘かに反日教育的な歴史教育を実施していました。それも日本に気づかれないようにずーとやっていました。アメリカ人やドイツ人にはそれほどでもないんですが、日本人はだまして取ってもいいと思っているのです。最初は熱烈歓迎で技術が欲しい、お金が欲しいなんですが、本音の部分が最近わかってきました。中国との関係はそのところをうまく理解して、良いところは良い、腹の中はこんなところなのかと納得してつきあっていかなければならないと感じております。

今や高度成長を続ける中国人にとってライバルとなった日本人。秘かに進められていた反日教育を受けて来た純粋な子供も立派な大人になりました。日系企業を乗っ取った青年は中国では英雄なのです。IBMのパソコン事業を買収したというシンボリックな現実が中国人を奮い立たせていますし、近年の経済成長がそれを裏づけています。日本と中国の付き合い方はこれからも変わり続けると思います。

次週例会 3月16日 クラブ休会

次々週例会 3月23日 会員卓話 若月八十彦会員

